

令和7年度

事業報告書

公益財団法人 札幌交響楽団

事業報告書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

一般会計事業

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

1. 評議員、役員等及び事務局

評議員20名、理事22名、監事2名、事務局員15名（6ページ参照）

2. 交響楽団の編成

首席指揮者、名誉音楽監督、友情指揮者、首席客演指揮者、正指揮者 各1名、楽団員70名
ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー 計5名（7ページ参照）

（2026年3月末日現在）

3. 首席指揮者、名誉音楽監督、友情指揮者、首席客演指揮者、正指揮者及び楽団員は、次の回数 の公演に出演し練習に従事した。

首席指揮者 エリアス・グランディ 出演回数 12回、練習日数 13.5日

名誉音楽監督 尾高忠明 出演回数 3回、練習日数 4日

友情指揮者 広上淳一 出演回数 7回、練習日数 8日

首席客演指揮者 下野竜也 出演回数 10回、練習日数 7.5日

正指揮者 川瀬賢太郎 出演回数 12回、練習日数 10日

交響楽団としての出演回数は合計117回（2024年度は118回）

これらの練習日数は合計114日（2024年度は119日）

この他小編成による教育や福祉関係の活動47回（2024年度は38回）

なお交響楽団として移動日等も含めての稼働日数は231日（オーディション2日を含む）

（2024年度は236日オーディション2日を含む）

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

1. 自主公演 計45公演（2024年度は40公演）

【定期演奏会】16公演を実施（2024年度と同数）

2025年4月から2026年3月までに1プログラムにつき2日ずつ計16公演を開催した。

3プログラム6公演に出演・・・・・・首席指揮者 エリアス・グランディ

4月第668回定期演奏会を首席指揮者就任記念と銘打って精力的に広報を行った。

1プログラム2公演に出演・・・・・・ 名誉音楽監督 尾高忠明
2024年2月第659回定期演奏会で尾高が指揮を予定していたが、急病のため演奏できなかった公演プログラムを実施した。

1プログラム2公演に出演・・・・・・ 首席客演指揮者 下野竜也
・・・・・・ 正指揮者 川瀬賢太郎
・・・・・・ 客演指揮者 ハイイツ・ホリガー
トーマス・ダウスゴー

【hitaru シリーズ定期演奏会】4公演 (2024年度と同数)

首席指揮者グランディ、友情指揮者広上淳一のほかコンサートマスターとヴァイオリンの独奏でウィーン・フィルのフォルクハルト・シュトイデ、大阪フィルハーモニーの元音楽監督・現桂冠指揮者の大植英次が出演した。各公演には魅力的なソリスト、清水和音(ピアノ)、米元響子(ヴァイオリン)、児玉隼人(トランペット)を招聘した。

【名曲コンサート】4公演を実施 (2024年度と同数)

首席指揮者グランディ、前首席指揮者マティアス・バーメルト、元首席指揮者マックス・ポンマーそして夏休みコンサートなどでも人気がある宮川彬良が1公演ずつを指揮した。それぞれの指揮者が今まで指揮をした公演で人気を博した演目に注目しプログラムを策定、幅広い聴衆を呼び込んだ。

【特別演奏会】21公演を実施 (2024年度は16公演 市内3公演増、道内2公演増)

○札幌市内公演 11公演 (札幌単独主催6公演、札幌市と共催5公演)

1. 札幌シンフォニック・ブラス 5月10日
2. 3 hitaru でオーケストラ! ~星と月と歌の七夕コンサート (2公演)
(札幌市と共催) ※ 7月 7日
4. 5 札幌夏休みスペシャル 2025『となりのトトロ オーケストラストーリー』
(2公演) 8月10日
6. 7 札幌の第9 (2公演) 12月13日、14日
8. 9 みんなのオーケストラ in Kitara ♪世界ぐるっと名曲の旅♪ (2公演)
(札幌市と共催) ※ 2月23日
10. 札幌交響楽団 in ふきのとうホール Vol.6 2月27日
11. みんなでたのしむオーケストラ ~ユニバーサルコンサート~
(札幌市と共催) ※※ 3月22日

※札幌市共催低料金コンサート(札幌市文化芸術鑑賞促進事業)として実施

※※札幌市障がい者向け文化芸術体験事業の一環として実施

2025年度は初めての試みとして『みんなでたのしむオーケストラ～ユニバーサルコンサート～』（上記11）を開催した。演奏中ホール内の照明は落とさず、やむを得ない席の移動、声出しなどを可としたほか、手話通訳者・医師の手配、パイプオルガンの両側に鑑賞の手助けとなるスクリーンの設置、音声コード付きのプログラム、字の大きな拡大版プログラム、点字プログラムを準備した。ホワイエ内にはカームダウンスペースを設置したほか、演奏以外のことも楽しめるように写真撮影コーナーや弦楽器の大きさ・重さを体感できるコーナーを設けた。

○北海道内地方公演 9公演を実施

1. 砂川公演	4月27日
2. 新ひだか公演	5月25日
3. 長沼公演（萬田記念財団協賛）	9月10日
4. 中標津公演	11月23日
5. 遠軽公演	11月24日
6. 小樽公演	1月17日
7. 苫小牧公演	1月18日
8. 洞爺湖公演	2月20日
9. 七飯公演	2月21日

○東京公演 1公演を実施 2月 5日

2. 依頼公演 44公演を実施（2024年度は49公演）

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **29回**（2024年度は35回）

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **15回**（2024年度は14回）

札幌市芸術文化財団、北海道新聞社、道新文化事業社、北海道電力、北洋銀行、北海道銀行、北海道公立学校教職員互助会、タナカメディカルグループ、北海道テレビ、北海道ガスをはじめ多くの団体、自治体から依頼を受けた。

1973年から開催している北海道電力主催、北海道放送主管のほくでんファミリーコンサートは3公演を実施、第547回は38年振りの泊村での開催であった。教職員互助会主催では33年振りの訪問となった雨竜町、28年振りの中札内村で演奏を行った。

（3）青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室 28公演を実施（2024年度は29公演）

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **15回**（2024年度15回で同数）

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **5回**（2024年度は11回）

○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **8回**（文化庁学校公演）

（2024年度は3回）

札幌市内公演は Kitara ファーストコンサートが1公演減の10公演のほか5つの高校の芸術鑑賞会に出演、北海道内地方公演は、道新ジュニアクラシックとして旭川、登別、小樽、苫

小牧、音更でそれぞれ1公演、北海道外は文化庁の学校公演で、関東、中部、中国地方を回った。

音楽教室の開催数はそれぞれの学校、教育委員会の開催方針に左右されている。

楽団員による楽器講習会では、楽団員が児童、生徒と音楽を通して交流を深め、技術的な指導を行った。5月に開催した札幌シンフォニック・ブラスでは初めて小学生と札幌が共演、事前講習会を実施した。また北ガス文化財団主催『北ガス文化財団 Presents 暮らしを彩る演奏会』を苫前町と様似町で開始。楽団員10名ほどが両町を訪問し、アンサンブル演奏会と中高校生対象のクリニックを実施、楽器のウォームアップの仕方、日々のトレーニングなどを指導した。

このほかに、網走信用金庫100周年記念事業として開催した7月の札幌網走公演では、オーケストラが網走で公演することに合わせ、本公演の翌日にクリニックを開催、網走市内の中高校生が参加した。

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

その他の広報宣伝活動

●各種媒体での広報・宣伝活動

自主公演の公演プログラムで公演情報や楽曲の解説を行ったほか、ホームページ、Facebook、X、Instagram、YouTube、TikTok など媒体の特性にあわせた情報発信を行い、札幌ならびに音楽への理解促進を図った。

hitaru シリーズ定期演奏会ではホワイトボードを使って作品にまつわる情報をイラスト付きで紹介、名曲コンサートでは読み物として「札幌 STAFF による気まぐれ通信：かぶりっちょ」を配布、定期会員へのメールマガジン「札幌豆メール」でより音楽を楽しむ情報発信を行うなど、様々な角度から音楽を楽しんでもらう工夫を続けている。

このほか北海道新聞「奏で人」の取材対応や、AIR-G' FM 北海道「札幌プレイヤーズファイル」への出演により、楽団員一人ひとりの魅力を伝えることに努めた。また、市内タクシーやホテル、観光施設の協力のもと、割引クーポン付きの年間リーフレットを設置し観光客に対しても認知向上と来場促進を図った。

宣伝活動については、大通駅地下通路のデジタルサイネージでの広告掲出、Facebook・Instagram での SNS 広告配信など、リアルとネット両媒体での発信に力を入れた。特に、SNS 広告配信では、ユーザーの反応を検証したうえで配信対象(年代や興味関心など)や配信する画像イメージを変更するなど、より良い効果を得られるよう工夫を重ねている。

その他の公演事業

クラシック演奏会に出かける機会が少ない方々に対し、こちらから出向き、札幌の存在をアピールした。

○アンサンブル (計21回)

企業・団体の周年記念イベントへ出向いての演奏のほか、エスコンフィールド HOKKAIDO で開催された「第45回日米大学野球選手権大会」においては2日間にわたって、初日はコンサートマスターによるヴァイオリンソロ、2日目は首席トランペット奏者のソロで国歌を演奏。テレビコマーシャルの出演依頼では、映像と音源の収録を行った。

また2025年4月から施行された「札幌市誰でもつながり合う共生のまちづくり条例」の札幌駅前地下歩行空間（チ・カ・ホ）での告知イベント「ユニバーサル Fes」に出演。アンサンブル演奏の他、来場者は楽器体験コーナーで実際の楽器に触れた。

○支援学校等への訪問演奏（9回）

養護学校や支援学校、児童養護施設に楽団員が出向き、コンサートに出かけることが難しい児童生徒に対し、体育館や施設内のスペースを使って演奏し、近距離ならでの生の音の迫力と音楽を楽しんでもらった。

周年特別事業会計

周年特別事業としての事業は実施しなかった。

公益財団法人札幌交響楽団 評議員、役員等及び事務局

評議員	あおい ひろみ	理事長	堀井 友二	事務局	
	阿部 博光			楽団長・事務局長	荒木 均
	雨貝 尚子	副理事長	田中 良治	事務局次長	庄司 寿子
	石川 義浩		箱石 文祥		
	井田 重芳			総務営業部	
	長内 勲	専務理事	荒木 太郎	部長	中川 広一
	佐藤 圭一			主任	櫻田 千恵
	惣田 浩	理事	大槻 博		奥山 大介
	高橋 憲正		勝田 直樹		岸本 彩子
	立川 宏		金井 昭雄		木村 奈緒
	千田 雅子		加森 公人		坂井 紳一郎
	千葉 潤		小山 章司		柴崎 麻里絵
	中川 賢一		阪 豊彦		吉野 早苗
	長沼 修		笹原 晶博		
	三部 安紀子		島田 修	事業部	
	三輪 宣彦		谷内 浩史	部長	黒田 朋子
	村山 英彦		知野 学	主任	田鍬 敦志
	吉田 祐樹		鶴井 亨	主任	種池 純子
	米森 正貴		寺内 達郎		伊藤 宇宙
	亘 晋吾		中村 達也		米倉 裕太
評議員 20名			似鳥 昭雄	事務局員 15名	
			東原 俊郎		
監事	小寺 正史		萬田 直紀		
	酒井 純		村田 正敏		
監事 2名			安田 光春		

理事 22名

(2026年3月31日現在)

札幌交響楽団 指揮者・楽団員名簿

首席指揮者 エリアス・グランディ 名誉音楽監督 尾高 忠明 友情指揮者 広上 淳一
 首席客演指揮者 下野 竜也 正指揮者 川瀬 賢太郎

コンサートマスター 2名

会田 莉凡 特別契約
 田島 高宏 特別契約

ヴァイオリン 20名

赤間 さゆら
 飯村 真理
 井上 澄子
 岡部 亜希子
 河邊 俊和
 桐原 宗生 首席・特別契約
 熊谷 勇大
 小林 美和子 副首席
 佐藤 郁子
 多賀 万純
 高木 優樹
 竹中 遥加
 龍田 香菜美
 鶴野 紘之
 デイブ・スクアーレ・ウインチェンツォ
 土井 奏
 富田 麻衣子
 中村 菜見子
 三原 豊彦
 山下 暁子

ヴィオラ 8名

青木 晃一
 荒木 聖子
 鈴木 勇人 副首席代行・バス・クター
 仁木 彩子
 原 香奈恵 副首席代行
 櫛本 朱音 副首席代行
 廣狩 亮 首席・特別契約
 物部 憲一

チェロ 7名

石川 祐支 首席・特別契約
 小野木 遼
 角野 友則
 猿渡 輔 副首席
 武田 芽衣
 廣狩 理栄
 横山 桂

コントラバス 5名

飯田 啓典
 稲橋 賢二 副首席
 大澤 敬
 斎藤 正樹
 吉田 聖也 首席

フルート 3名

川口 晃 副首席
 クリス・ウオン 首席
 福島 さゆり

オーボエ 3名

浅原 由香 副首席
 関 美矢子 首席
 宮城 完爾

クラリネット 3名

白子 正樹 副首席
 原田 侑來
 三瓶 佳紀 首席

ファゴット 3名

坂口 聡 首席
 夏山 朋子 副首席
 村上 敦

ホルン4名

岩佐 朋彦
 折笠 和樹 バス・クター
 土谷 瞳 副首席
 花澤 良平

トランペット3名

籠谷 春香 首席(試用期間)
 小林 昌平
 佐藤 誠

トロンボーン3名

田中 徹
 中野 耕太郎 副首席
 山下 友輔 首席

バス・クター1名

澤山 雄介

チューバ 1名

玉木 亮一

ティンパニ・打楽器 4名

入川 奨 首席
 尾形 賢一 試用期間
 大垣内 英伸
 大家 和樹 副首席

楽団員計 70名 うち特別契約 5名

パーソネルマネージャー

玉田 周哉

ステージアドバイザー

猪狩 光弘

スタッフ

安達 嵩博

山下 大樹

ライブラリアン

石見 奈都江

スタッフ計 5名

(2026年3月31日現在)

札幌交響楽団 2025年度活動報告

公益財団法人 札幌交響楽団

<https://www.sso.or.jp>

札幌交響楽団の活動

オーケストラ演奏会

計117公演

■ 自主公演(45公演)

定期演奏会(札幌市内) 20公演

札幌市内 15公演

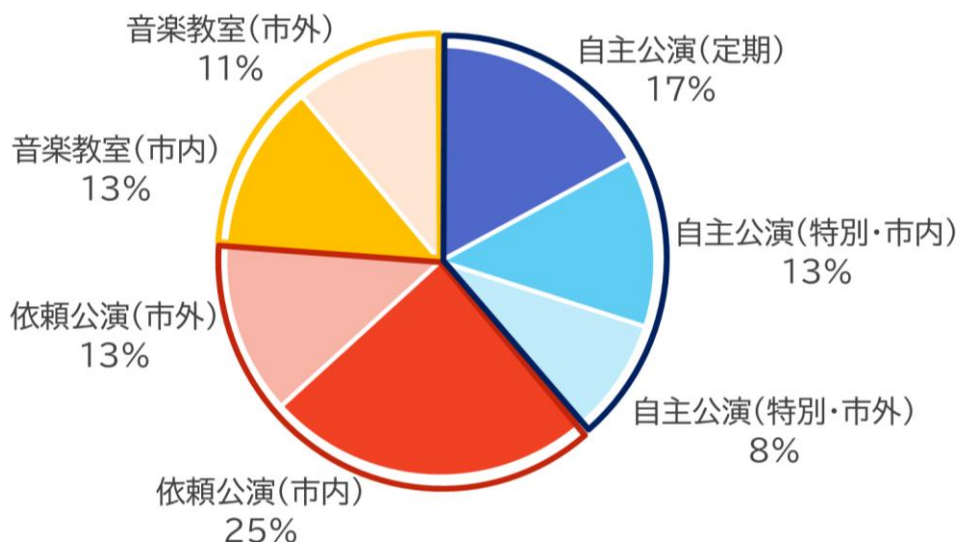
北海道内 9公演

北海道外(東京公演) 1公演

■ 依頼公演(44公演)

■ 音楽教室(28公演)

2025年度演奏会内訳



教育・地域活動、アンサンブル演奏

計46公演

総計163公演

自主公演 札幌が主催する演奏会

■ 定期演奏会 20公演

2つのシリーズで20公演を開催

定期演奏会 8プログラム 16公演
hitaruシリーズ定期演奏会 4プログラム 4公演



4月定期
エリアス・グランディ
～首席指揮者
就任記念～

■ 札幌市内公演 15公演

札幌名曲コンサート 4公演
札幌シンフォニック・ブラス 1公演
札幌夏休みスペシャルコンサート 2公演
札幌の第9 2公演
札幌ふきのとうホール Vol.6 1公演
札幌市共催・低料金コンサート 2プログラム 4公演
札幌市共催・ユニバーサルコンサート 1公演

3月定期
昨年、尾高忠明が急病
のため指揮できなかった
公演を実施。



夏休みスペシャルコン
サートでは、おとなも、
こども大好きなあの
物語をオーケストラの
奏でる音楽とやさしい
語りでお届けしました。

■ 北海道内公演 9公演

砂川／新ひだか／長沼(萬田記念財団協賛)
中標津／遠軽／小樽／苫小牧／洞爺湖／七飯

昨年に引き続き、札幌市共催の低料金コンサートを実施。今年にはユニバーサルコンサートを初開催。手話通訳者、スクリーン設置のほか、音声コード付き、拡大版、点字プログラムを準備し、年齢や障がいの壁を超えて、だれもが音楽を楽しめる演奏会を開催した。



■ 北海道外公演 1公演

東京公演2026 (2月、東京・サントリーホール)



『エリアス・グランディ×札幌』の初の東京公演は、武満作品と、エリアスが意欲的に取り組みたいと語るマラー「さすらう若人の歌」、R.シュトラウス「英雄の生涯」をお届けしました。

道内公演のうち3公演(中標津、遠軽、小樽)では楽団員がソリストを務め、札幌の魅力を伝えました。



依頼公演

企業、自治体などの依頼で行う演奏会

■ 札幌市内公演 29公演

札幌市芸術文化財団主催<Kitara、hitaru> 5公演

- Kitara 5月 Kitaraきがるにオーケストラ
12月 Kitaraのクリスマス
1月 Kitaraのニューイヤー
- hitaru 10月 新国立劇場バレエ団「シンデレラ」(2公演)

企業・団体主催 24公演

- ・石丸幹二 オーケストラコンサート2025～デビュー35周年記念
 - ・モンスターハンターオーケストラコンサート～狩猟音楽祭2025～
- ほか



Kitaraあ・ら・かると(指揮:水戸 博之)
札幌新川高校吹奏楽部トランペットメンバーと共演



Kitaraのニューイヤー(指揮:原田 慶太楼)

■ 道内各地の公演 15公演

北海道新聞社、北海道電力、北海道公立学校教職員互助会やその他企業による補助と、各自治体、会場ほか関係機関の協力のもと、以下の市町で15公演が開催されました。

江別／稚内／函館／岩見沢(2公演)／網走／中札内／伊達／旭川／雨竜／帯広／釧路泊／栗山／千歳



江別公演(指揮:鈴木優人)



「ほくでんファミリーコンサート」(伊達)
(指揮:出口大地)



公立学校教職員互助会公演事業(雨竜)
(指揮:下野竜也)



網走公演(指揮:喜古恵理香)



「クロネコファミリーコンサート」(旭川)
(指揮:飯森範親)

音楽教室

青少年に音楽の楽しさを伝える演奏会

■ Kitaraファースト・コンサート

10公演

札幌市内と近郊の小学6年生を対象とした「Kitaraファースト・コンサート」全10公演を実施。

前半の3公演を正指揮者・川瀬賢太郎が、
中間の4公演を首席客演指揮者・下野竜也が、
後半の3公演を首席指揮者・エリアス・グランディが
それぞれ担当しました。



2004年から続く「Kitaraファースト・コンサート」
歌や拍手と一緒にオーケストラを楽しみました。

■ ジュニアクラシック 10公演

北海道新聞社などの助成を受けて道内各地で開催する
ジュニアクラシックコンサートは5公演を実施しました。
旭川、登別、小樽、苫小牧、音更

Kitaraを会場とした高等学校のジュニアクラシックコンサートは
5公演実施しました。

文化庁主催

■ 舞台芸術等総合支援事業

(学校巡回公演)

8公演

文化庁主催の学校巡回公演として、道外8校(広島、岡山(2校)、
静岡(2校)、島根、岐阜、神奈川)を訪問しました。受け入れ学校と
の入念な打ち合わせのうえ、事前訪問のワークショップとオーケスト
ラ演奏会を実施しました。



演奏に楽器紹介や指揮者のトークを交え、
音楽や楽器の楽しさを伝えました。



学校での公演はコンサートホールよりも子どもたちと近い距離で、オーケストラの生の音の迫力を直接伝えています。
間近で見る楽器・聴く音楽に、子どもたちは興味津々でした。

教育・地域活動、アンサンブル演奏会

● 教育への貢献 教育や子供たち、若者を音楽で支援することに取り組んでいます。

＜楽団員による指導＞

中学生を対象とした楽器講習会では、楽団員が技術的な指導を行いました。



＜楽団員による講義＞

北海道大学教養課程などで楽団員がレクチャーの講師を務めました。



＜スクールコンサート＞

道内の養護学校等を訪問し、アンサンブル演奏を行いました。



● 地域への貢献 福祉施設や街のにぎわいの中など地域の様々な場面に音楽をお届けし、人々の元気と地域の活性化に寄与する取り組みを行っています。



札幌駅での「JRタワー妙夢コンサート」に出演。



病院や高齢者施設などを訪問しミニコンサートを実施。会場に足を運ぶのが難しい方々に生の音楽をお届けし、喜んでいただきました。

7月、エスコンフィールドHOKKAIDOで開催された「第45回日米大学野球選手権大会」で、コンサートマスターの田島と、トランペット首席奏者の福田が両国の国歌独奏を務めました。



広報・宣伝活動、普及への取り組みなど

● 広報・宣伝活動

エリ阿斯・グランディが首席指揮者として北海道、札幌市へ表敬訪問し、就任演奏会への意気込みなどを伝えました。また、就任記念として特別リーフレットを制作、配布しました。

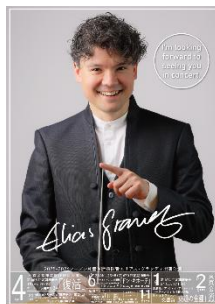
従来の新聞やテレビ、ラジオでの情報提供に加え、YouTube、Facebook、X、Instagramなど、インターネットの積極的な活用に取り組んでいます。今後も手段や内容を変えた試みを行い、効果検証をしながら効果的な広報・宣伝活動を展開していきます。



北海道 表敬訪問



札幌市 表敬訪問



新・首席指揮者
エリ阿斯・グランディ
特別リーフレット配布



● 普及活動～ロビーコンサート、動画配信



定期演奏会でのロビーコンサートに加え、YouTubeで「プレイヤーズ・トーク」や、ソリストを務める楽団員・指揮者のインタビュー動画を配信。生の声で、作品との出会いや共演者とのエピソードなどを紹介し、より音楽を身近に感じていただけるよう取り組んでいます。

● 普及活動～ニューイヤーコンサート&パーティ、練習見学会（札幌会員向け）



パーティで配布したフォトカード



練習見学会の参加者に向け指揮者がトーク(9月:下野竜也)

札幌会員の参加イベントとして、「ニューイヤーコンサート&パーティ」を開催。楽団員・指揮者との交流のきっかけとしてフォトカードを配布し、サインを集めるゲーム要素を加え、来場の皆さまにご好評いただきました。

また、定期演奏会のリハーサル時、練習見学会を2回実施しました。

次年度も会員向けのイベントの実施に引き続き積極的に取り組んでまいります。

